

# 16 古文2 古文の言葉とその意味

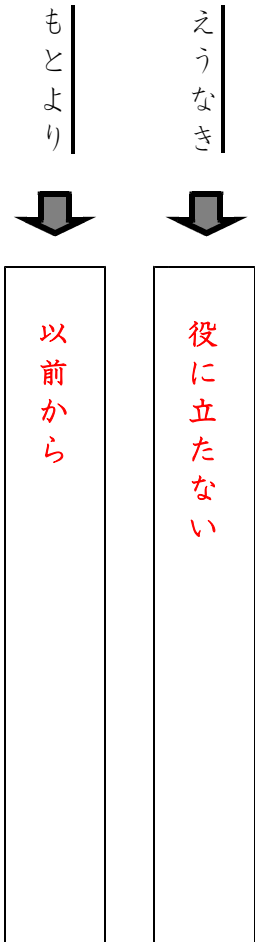
組			
番号			
氏名			

1 次は「伊勢物語」の一節とその「現代語訳」です。――部の言葉の意味を「現代語訳」の中から抜き出しなさい。

昔、男ありけり。その男、身をえうなきものに思ひなして、京にはあらず、あづまの方かたに住むべき国求めにとて行きけり。もとより友とする人、一人二人して行きけり。道知れる人もなくて、惑まどひ行きけり。  
(「第九段」より)

## 【現代語訳】

昔、男がいた。その男は、自分を役に立たない者と思ひこんで、京にはいるまい、東国の方に住める国を探しに(行こう)と思つて出かけた。以前から友とする人、一人二人と一緒に行った。道を知っている人もなくて、迷いながら行った。



次は「徒然草」の一節とその【現代語訳】です。――部の言葉の意味を【現代語訳】を参考に答えなさい。

仁和寺にんなじにある法師、年としよるまで、石清水いししみづをおが拝まざりければ、心こころうおぼ覚おぼえて、ある時思おもひ立ちて、たただ一人、徒歩かちより詣まうでけり。極楽寺ごくらくじ、高良かうらなどをおが拝みて、かかばかりと心得こころえて帰りにけり。さて、かたへの人ひとにあひて、「年としごろ思おもひつること、果はたしはべりぬ。聞きしにも過ぎて、尊たうくこそおはしけれ。そも、参まゐりたる人ごとに山へのぼりしは、何事なにごとかありけむ、ゆかしかりしかど、神へまゐるこそ本意ほんいなれと思ひて、山までは見みず。」とぞ言ことひける。

少しのことにも、先達せんだちはあらまほしき事なり。

【現代語訳】

仁和寺にいたある法師が、年をとるまで石清水八幡宮を参拝したことがなかったので、残念なことだと思われ、ある時思い立って、一人で歩いて参詣した。極楽寺・高良（神社）などを拝み、これだけのものと思いきんで帰った。そして仲間に会い、「長年思っていたことを、果たしました。話に聞いていた以上に尊たうくたうていらっしやいました。それにしても、参詣した人がみな山へ登っていったのは何事かあったのでしょうか、知しりたかかったけれど、神に参まゐることが本来の目的だと思おもい、山までは見みませんでした。」と言ことった。

わずかなことにも、（その道の）案内者はあってほしいものである。

